

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	<p>(プロジェクト目標) 東エルサレムのシルワン地区およびアットゥーリ地区において、女性が社会経済的にエンパワメントされる。</p> <p>(指標) 職業訓練参加者の50%の女性が小規模ビジネス等を開始する(達成度) 84% (参加者の40%が小規模ビジネス等を開始)</p> <p>※詳細は後述の「期待される成果①」を参照</p> <p>(1年次) 対象地の女性が収入を得るための技術を習得すると共に、男性と平等に権利を保持していることについて知る。</p>
(2) 事業内容	<p>1-1: 女性への職業技術訓練 (5職種、各10名) ※4→5職種 (変更報告1号を反映)</p> <p>(ア) 研修生の選定: 計画通り 全コース10人ずつ合計50人選定したが、研修途中で家庭の事情で継続できない人が出てきたため、最終的な研修生(延べ人数※)は49人となった。 ※「石鹸作り」と「キャンドル作り」は同じ研修生が参加したため、重複を除くと39人が参加</p> <p>(イ) 事業マネジメントや予算計画、広報の研修: 計画通り実施 2021年8月～11月にかけて事業マネジメント、広報マーケティング研修を合計10回実施し、延べ153人が参加した。小ビジネスの開始に必要な実践的な知識やスキルを学んだ。また、マーケティングの講師が個別の相談にも応じた。</p> <p>(ウ) 各職種職業技術訓練: 計画通り実施 2021年5月～2022年1月にかけて各訓練(洋裁・ファッションデザイン、パン・焼き菓子作り、メイクアップ、石鹸作り、キャンドル作り)を実施。メイクアップを除き、目標としていたクリスマスバザー前に訓練が終了。5職種合計65回の研修に延べ477人が参加。1回の研修の平均参加率は7割。</p> <p>1-2: 学びの実践と情報共有の機会の提供 (バザーの開催): 12月に実施 中間報告時点では2022年1月に実施を予定していたが、クリスマス時期の方が売上に繋がりがやすいということで12月23日に実施。当日はあいにくの雨であったが、研修参加者の家族・知人をはじめ約300人(うち8割は女性)の来場者があった。</p> <p>2-1: 各種研修の実施: 計画通り実施 2021年3～8月にかけて各訓練を実施。6テーマ(基本的人権、ジェンダー、ハラスメントと対処法、論理的・批判的思考、コミュニケーションスキル、リーダーシップ)で合計75回、延べ女性384人、男性51人、青少年541人が参加。</p> <p>2-2: 他地域(先進事例)へのスタディツアー (2回/年): 計画通り実施 2021年9月と10月に実施。女性・青少年グループと男性グループに分かれ、女性たちが活躍する地域(Majidal Shams マジダルシャムスおよびKfar Kama クファールカマ)を訪問。延べ女性76人、青少年70人、男性94人が参加。女性たちがどのように地域に受け入れられているかなど話を聞き、シルワン・アットゥーリ地区とは異なる地域文化について知るにより多様な価値観に触れることができた。</p>

(3) 達成された成果

【期待される成果①】

対象地の女性が収入をえるための技術を習得する。

(指標) 職業訓練に参加した女性の8割が、学んだ技術を使って実際に収入を得る。

(達成度) 52% (参加女性の4割強が小規模ビジネス等を開始)

事業終了時点で助成金を得て確実にビジネスを立ち上げる準備を進めている女性14人、受講した研修内容以外の内容も含めビジネスを既に行っていた女性やサロンでインターンを開始した女性など就業に向けての動きが見られる7人を含め、合計21人の女性たちが何らかの形で研修を通じて習得したスキルを土台にビジネスを展開している。

達成度が目標値を下回った要因としては、COVID-19の影響やラマダン期間との重複、現地協働団体(AWC)への着金の遅れで研修開始が遅れたことがあげられる。結果、職業技術訓練の終了が事業完了の1~2ヵ月となったため、小ビジネスを立ち上げる準備期間がとれなくなってしまった。その結果、事業終了時点で確実にビジネスを立ち上げ、収入を得た確認ができた人数が計画当時の見込みより少なくなった。

しかしながら、上記人数には含めなかったが「小ビジネス」とはいかずとも友人や親戚、近所の人たちに手作りのものを販売し、サービスを提供している女性も多くいる。また、各研修の修了式で「得たスキルを活かして小ビジネスを始めたい」と言った発言が多く聞かれ、残りの60%の女性たちの多くが少し時間はかかっても小ビジネスを始めたいという意思を有することは確認できたため、2年次事業でのフォローアップを通じて目標を達成できればと考えている。

1-1: 女性への職業技術訓練 (5職種、各10名) 結果: 49人

選定時の参加者は50人だが、洋裁・ファッションデザインに参加者の一人が夫の仕事の関係で地域を離れたため訓練を続けることができなくなった。その時点ですでに複数回の訓練が行われていたため、新たな参加者を募ることは断念した。結果、参加者は計画より1人減となった。

各訓練の最終日には現地協働団体(AWC)から参加証が手渡され、訓練の振り返りが行われた。いずれの訓練でも当該技術の習得が成果として言及されたが、それ以上に「切磋琢磨する仲間ができたこと」「良い先生に巡り合えたこと」「学べる楽しさ」「新しい知識やスキルを得る嬉しさ」「継続することの素晴らしさ」など多くのポジティブな点にも言及があった。

また、訓練生のうち18人が小ビジネスを始めるための助成金に応募し、うち14人が合格した。14人は早速小ビジネスを始めるための準備を行っている。またその他にも7人の女性たちが学んだ技術を活かしたビジネスを既に行っている。現時点での収入の有無は確認できていないが、後述するバザーでの経験により少なくとも16人の女性たち(参加者の40%)は学んだ技術を活用して生み出した商品やサービスによって収入を得る体験をすることができた。

1-2: 学びの実践と情報共有の機会の提供 (バザーの開催)

受講生39人中16人が参加。全員が訓練で学んだ技術を活かして作製した商品を販売することができた。中でも手作りパンを販売した女性は味や見た目もさることながら、総菜パンを選び、小さなパックに入ったサラダも同時に販売するなど工夫を凝らして一番の売上を誇った(700シェケル、約25,000円の売上)。また、一人当たり平均192シェケル(約7,000円)の売上を得た。メイクアップの出店者はお試し(希望者にメイクアップを施す)のデモンストレーションを行い、習得した技術を披露した。

バザーは年末近くの実施となったため、家庭の事情で参加できなかった女性も多かった。そのため、来年度はより参加しやすい11月中の実施を予定している。

また、バザー開催時に参加者の家族（夫や息子含む）が商品の運搬を手伝うなど非常に協力的であったことは、バザーの副次的な成果ではあるが、後述の「期待される成果②」につながる要素として言及したい。

【期待される成果②】

直接裨益者の家庭やその周辺において女性の権利が進む

（指標）

- ・研修に参加した女性の7割が人権、ジェンダーに関する知識が向上する
- ・研修に参加した男性の5割が、家族の女性が経済活動のために一人で外出することを認めるようになる
- ・研修に参加した青少年の8割が女性も男性と同様の権利を有していることを知る。

結果：下記のことから、成果はほぼ達成できたといえる

2-1:各種研修の実施

▶女性向け

「基本的人権」「ジェンダーとハラスメント対処法」に関しては研修時間および研修人数ともに目標を達成した。一方、「論理的・批判的思考」「コミュニケーションスキル」「リーダーシップ」のトピックに関して計画時の研修時間は達成したが、目標の参加人数を下回った。研修時期が子どもたちの夏休み時期と重なり、女性たちが頻繁に外出することが難しいことが主な要因と考えられる。2年次事業に向けて研修スケジュールについて工夫する。

しかしながら研修前後に実施したアンケートの結果、「女性の服装はセクハラの原因となる」に対して同意を示す女性が52%から16%に減少するなど、研修を通じて女性の権利への意識啓発がなされた。

▶青少年向け

「基本的人権」「ジェンダーとハラスメント対処法」「コミュニケーションスキル」「論理的・批判的思考」「リーダーシップ」の全てにおいて、計画していた研修時間および参加者数を達成することができた。また、研修前後のアンケートにおいて、「すべての子どもは性別、人種、宗教に関係なく、基礎教育を受ける権利を有する」に対して、強く同意を示す青少年が48%から74%に増加するなど、研修を通じて基本的人権への意識啓発がなされたことが伺える。

▶男性向け

「基本的人権」のみ実施したが、計画を1人上回る51人の参加があった。イマーム（宗教指導者）による有難い話を聞くことができるという点や地域の男性同士の口コミネットワークによる力が機能した。研修場所である「女性センター」に男性が行くこと、前述のバザーに参加する奥さんを会場まで送り迎えするなど女性について理解し、側面から女性を支える様子が伺えた。

なお、各訓練の最終日に実施した振り返りや、事業完了時に行った参加者へのグループ・インタビューからは、以下の2点が成果の定着を支えるポジティブな変化として確認されている。

	<p>ひとつは、参加者らから「一年後に自分が人前で話せるようになるとは思わなかった」「自分が作ったものを誰かに売ることができるなんて」など、自身の内面や性格の変化を喜ぶ声が複数聞かれ、活動全体を通じて、参加者一人ひとりが、技術や知識を身につけるだけでなく、内面からエンパワメントされたことが確認された。</p> <p>また、参加者らが、娘など家族に学んだ技術を伝えたり、夫や子どもにビジネスを手伝ってもらうなど、家族への波及効果が確認されている。女性たちが学んだ技術や知識を活かし、本事業の成果を持続させていくためには、家族の理解と協力が欠かせず、これを支える変化と言える。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業で得た成果が継続できるよう、2年次事業においても事業対象地域をシルワン・アットゥーリ地区の周辺に拡大し、新たな裨益者への職業技術訓練や各種研修を提供することで、地域で活躍する女性の増加に努める。また、1年次事業に参加した女性たちがモチベーションを保ち、研修で得た知識やスキルを活用しながらビジネスを立ち上げることに際して関連する情報の提供、相談窓口やフォローアップなどを行うことで、本事業終了後も学びが定着するよう意識しながら活動を継続していく。 ・上述のとおり、参加者が学びを主には家族に伝え始めている。参加者たちがそれぞれの経験をコミュニティ内に共有していくことで、知識や女性の経済活動への理解がさまざまな年代に徐々に拡がるのが期待できる。 ・2年次の事業においても、本事業で女性の社会参画について理解した男性たちのさらなる理解や本事業への参加を促進する。その結果、周囲の男性への波及効果のある男性が徐々に増加することで、女性が経済活動に参加しやすい地域の雰囲気醸成されることが期待できる。 ・女性参加者が地域で活躍している姿を地域に発信していくことで、女性の生き方の多様性が認識され、女性たちが地域社会で活躍できるような土台が築かれることが期待できる。 ・現地協働団体のAWCにとっては、本事業が、同じ参加者を対象に1年という長期間にわたりインプットを行う形で活動を行う初めての経験だった。その中で、1年次の活動では、参加者において、技術面ならびに内面でポジティブな変化、エンパワメントが確認されており、これについてはAWCも手ごたえを感じる結果となったことがAWCとの日々の会話、年間振り返り時のインタビューから確認されている。また、事業運営についても、AWCが年間を通じて改善や工夫を重ねていく様子が確認された。この経験は、2年次終了以降も活かされると期待される。そのために、2年次には、1年次に得られた課題と教訓を活かして事業範囲を拡大、また活動内容に改善を加えるなかで、当団体は、AWCの事業運営に対するモニタリングとフォローアップを行い、AWCが中心となって活動実施、成果を達成・継続していけるよう、インプットも進めていく。